

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （経営者）	・高速道路の無料化社会実験や料金下げによる効果が今後も続く。存続が危ぶまれたフェリーの延命策も前向きに検討されている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・残暑も終わりこれから寒くなっていくため、季節商品の売れ行きは改善する。
		百貨店（販売担当）	・今月は予想外に落ち込みが大きかったが、11～12月になれば客の意識も完全に冬ものに切り替わり、クリスマスのギフト需要などによる売上の上昇が期待できる。
		スーパー（営業担当）	・客数が伸長しており、徐々に回復基調に向かっている。
		スーパー（販売担当）	・冬のボーナスによって購買意欲が高まる。
		家電量販店（店員）	・家電の新製品が出てくることに伴い、客単価が向上する。
		乗用車販売店（経営者）	・冬季に向けてスタッドレスタイヤの購入が期待される。
		その他飲食〔仕出し〕 （経営者）	・秋、冬は弁当需要が増える傾向がある。おせちなどの受注時期も控えて少しは持ち直す。
		タクシー運転手	・今があまりにも悪すぎるので、10月以降は少しは需要が戻ると期待している。
		タクシー運転手	・毎年11月の後半から12月にかけては忘年会シーズンとなり、タクシーは一年で一番忙しい時期を迎える。
		通信会社（サービス担当）	・映像サービスのエリアが今後拡大しつつあるので、地デジ対策に、インターネット通信網を使ったテレビサービスの申込が増えることが見込まれ、若干良くなる。
		美容室（経営者）	・秋分の日ごろから涼しくなり来客数も増えてきた。2～3か月先は正月にかかるため、夏に来店しなかった客が9月末から10月、11月と増える。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・暑さもようやく一段落し、移動用具のレンタル出荷量が年末まで見込める。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・しばらく停滞していた問い合わせが9月下旬から活発化してきた。今後は若干好転する。
変わらない	商店街（代表者）	・景気低迷に加えて円高になるなど、売上増を期待できる要素がない。	
	商店街（代表者）	・このところ、1～2か月の間で良くなったり悪くなったりを繰り返しているため、その傾向は年末に向けても続く。	
	商店街（代表者）	・相変わらず必要以外のものは購入しない傾向は続いている。	
	商店街（代表者）	・猛暑によりエアコンは好調でしたが、冷蔵庫や洗濯機の動きが悪い。テレビも販売台数は好調であるが、単価の下落が激しい。売れているものは小型のものがほとんどで、収益向上にはなかなか至らない。	
	一般小売店〔結納品〕 （経営者）	・現状のままで良くなる要素が見つからない。	
	一般小売店〔電気屋〕 （経営者）	・季節的要因で販売量は増えるが、販売単価が下がっているため、全体としては変わらない。	
	一般小売店〔薬局〕 （経営者）	・天候不順、地元経済の不景気、安い商品しか買わない客の節約志向など、景気が上向き要素がない。	
	一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・飲食店への来店、接待、個人利用とも回復する要素がない。	
	一般小売店〔生花〕 （経営者）	・良くなる要素が見つからない。	
	一般小売店〔自然食品〕 （経営者）	・安心・安全な食品への志向はあるものの、余裕がないと購買意欲が失われてしまっている。どうしても必要としている人だけしか関心を示さない。	
	一般小売店〔果物〕 （店員）	・向こう3か月程度では状況は改善しない。	
	百貨店（売場主任）	・通年通りのイベントをしても客の反応は今一つである。購買を見極める厳しい目は依然として続いている。	
	百貨店（経理担当）	・販売量、来客数など総じて振るわない。	
	スーパー（経営者）	・現状の悪い状況はこの先も変わらず続いていく。	
	スーパー（経営者）	・一部の企業を除いて、利益が向上せず、消費景気が盛り上がりせず低調に推移する。企業は経費削減を中心に努力しているため、給料、ボーナスは上がらず、消費に回らない。	
	スーパー（経営者）	・価格の安定について不安がある。	

スーパー（店長）	・たばこの値上げによって、今のところ仮需要が発生しているが、10月以降については反動が予想される。野菜関係の価格が下がれば、もう少し全体的に消費が上向く。
スーパー（店長）	・第3のビールが圧倒的に売れるように、日常商品については節約志向が定着しており、この傾向は変わらない。保存・買い置きできる商品については、特売の時以外はほとんど売れない。
スーパー（店長）	・たばこの値上げ後の落ち込みが予測され、向こう3か月～半年はやや悪くなるが、会社全体の販促変更効果もあるため、横ばいに推移する。
スーパー（店員）	・ここ3か月来客数が徐々に減っている。商品の動きも安いものだけしか動かない。競合店を見ても来客数が減っている。
スーパー（店員）	・相場動向も野菜関係の価格も下がるという情報はなく、この状況は年内続く。
スーパー（販売促進担当）	・客の動向を見ると価格中心の買物が多く、依然として財布のひもが固い状態にある。競合相手を見ても、同様に目玉価格商品の購入が多く見受けられる。
コンビニ（店長）	・3か月先もあまり変わらない。ボーナスシーズンは今年の6月と同様にあまり期待できない。
衣料品専門店（経営者）	・天気予報で今年の冬は寒くなると予報されているが、暦がずれてきている。正価販売できる時期が短くなってきている。
衣料品専門店（経理担当）	・今年の6月以降、総販売量の前年割れが継続している。当社を取り巻く状況も、百貨店、ショッピングセンター、チェーンストアなど各種協会の示す指標と差がなくなっている。
衣料品専門店（販売企画担当）	・秋は短くなりそうで、秋物は売上ダウンが予想される。今後どれだけ気温が下がって消費者の購買意欲が高まるかにもよるが、景気の改善は期待できない。
乗用車販売店（経営者）	・年内は悪いままの状態が続くと思われる。
乗用車販売店（従業員）	・楽観できる材料が特に見当たらない。中古車業界全体的に不振で、中古車は売れていない。エコカー減税は別として、特に明るい話題が業界にない。
乗用車販売店（従業員）	・今より悪くなることはないが、年内は悪い状態が続く。
乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金終了後のメーカーによる対策や、特別仕様車を中心とした車両の魅力を高めた施策を打っており、それらの効果が発現する。
住関連専門店（営業担当）	・建設業界全体、住宅関係では若干持ち直してきているものの、大規模な新築工事、企業関係の設備投資は減少している。ただ住宅エコポイントの延長については、リフォームが今後も活発化するため、業界全体では幾分良くなる。
その他専門店〔雑貨〕（店員）	・状況が変わる要素が見当たらない。
一般レストラン（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
一般レストラン（スタッフ）	・特に客の注文量が増えている様子がない。この傾向は変わらないため今後の景気回復が期待できない。
スナック（経営者）	・景気の低迷、円高など先行き明るい材料に乏しく、全体的にとっても閉塞感がある。客の懐事情もあまり良くないため、周辺の店も閉店時間を早めたり、閉店するところも目立ってきている。当分の間良くない。
観光型ホテル（販売担当）	・今のところ、秋口から秋季期間の個人客は順調に受注しているが、従前から行なっている企業のシリーズものの本数が目減りしてくると予想される。個人客が増えても、1本あたり100人規模の受注が減ることによる衝撃の方が大きい。
都市型ホテル（従業員）	・予約数の動向から状況は今後も変わらない。
都市型ホテル（支配人）	・良い材料が見当たらない。10月は従来ハイシーズンであるが、宿泊予約の出足が鈍い。
都市型ホテル（経理担当）	・今後の日中間の外交問題によって、中国人旅行者数が制約を受ける。
旅行代理店（経営者）	・これ以上円高の状況が加速しなければ良いが、先が全く不透明であるため、まだまだ厳しい状況が続く。
旅行代理店（経営者）	・年内は回復が難しい様子である。

	タクシー運転手	・益明けの出費を抑える時期も過ぎ、本来なら需要が戻ってくる時期であるが、依然として戻ってきていない。駅の乗車回転率、ホテルでの回転率などもまだ著しく悪い状態である。無線配車依頼も前年同月比に比べ激減している。この先2～3か月で好転する要因が見当たらない。
	タクシー運転手	・夜の街なかの飲食店、飲み屋街の人手が少ない。客に聞くと店内は閑散としていて、帰りたいときに帰りにくい状況となっているため、新たなお客と入れ違いで帰るようにしているという話も聞く。それだけ繁華街に出る人が少なく、無駄な出費を抑える節約の癖がついているのではないかと思われる。
	ゴルフ場（企画担当）	・11～12月の予約数は前年同期比で悪化している。今年は季節を問わず、前年同期比でやや悪い状態で推移してきた。向こう2～3か月はゴルフシーズンを迎えるが特に良くなる気配は見当たらない。
	美顔美容室（経営者）	・ホームケアセットのキャンペーンが12月末まで続く。これまでに購入した客が、2～3か月先にもう1セット購入すると見込んでいる。
	美容室（経営者）	・客の中には、年末にかけてボーナスなどの収入があると思うが、あまり使う方には動かない。
	その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・予測をやや下回りながらも、同じバランスで推移している。
	住宅販売会社（従業員）	・住宅エコポイントの延長が発表されたが、景気回復による効果が発現するには時間がかかる。
	住宅販売会社（従業員）	・現状が悪すぎるという状態である。企業の決算期に合わせた転勤、住み替えの需要も減っている状態で、新築賃貸住宅の需要も見込めず、見通しが立たない。
やや悪くなる	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・新年に向けた年末の贈答品であるカレンダーは、10～12月の今年の受注状況は前年同期比減と見込まれ、マイナス傾向に進んでいる。
	一般小売店〔食品〕（経営者）	・相変わらず円高、株安状態が続いており、景気対策の具体的内容、方向が定まっていない状態に見えるため、客の積極的な購買行動はまだ期待できない。今年中は景気の悪化が続く。
	一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・政治が混迷しており、先行き不安なことが多過ぎる。経済対策も充分に行われない状況であり、景気が良くなる要素が見当たらない。
	百貨店（売場主任）	・今年の夏は猛暑で外を出歩くより、涼しい百貨店の中を歩いている客が多かった。秋は行楽シーズンで外へ行くと郊外のショッピングモールなどで買物をする傾向になるため、駅近くの百貨店では売上が少し減る。プロ野球に絡むセールが始まると多少は売上が増えるものの、安い商品が売れるだけで正価販売商品はなかなか売れない厳しい状況が続く。
	百貨店（企画担当）	・6月、8月は前年並みの売上に戻ったが、7月、9月は前年を大きく下回った。1か月ごとに売上が良い月と悪い月が交互にきており、今後も同様の動きになる。
	百貨店（営業企画担当）	・国内の経済不安により、消費が冷え込む。ただし、前年が大幅に落ち込んだため、前年ほどの落ち込みはない。
	百貨店（販売担当）スーパー（店員）	・秋物の動きは天候による変動がない。 ・中国からの野菜の輸入がストップもしくは値段が高騰している傾向が見られる。もし今後日中関係が悪化するようなことがあれば、さらに輸入野菜が高騰する。
	コンビニ（エリア担当）	・たばこの値上げ前の駆け込み特需からの反動により、10月以降は売上が減少する。
	コンビニ（エリア担当）	・たばこ値上げに伴う買い溜めと禁煙者の増加により、たばこの売上が大きくダウンするとともに、買い合わせされていた缶コーヒーなどが売れなくなる。
	コンビニ（エリア担当）	・たばこ値上げ前の駆け込み特需の反動や円高の悪影響が懸念される。
	衣料品専門店（経営者）	・2番底、3番底が見えてきている。
	乗用車販売店（営業担当）	・たばこの値上がりや消費税が上がる不安感からお金を使わないと思われる。
	乗用車販売店（従業員）	・販売台数は先食いついた影響もあり、来客数、販売台数、客の様子から、季節とともに冬の時代に入ってしまうような状況である。ただし、工場への在庫数は活発で、目標をクリアしている。新車販売台数がかなり落ち込むが、メーカーからのテコ入れもあって、しばらくは悪いながらも利益を確保できる。

乗用車販売店（従業員）	・ 2～3か月後までは、エコカー補助金が終了したことによる影響が残り、どこが底かは分からない。
乗用車販売店（総務担当）	・ エコカー補助金の終了に伴い、反動が3か月ほど続く。
観光型ホテル（経営者）	・ 11～12月は、宿泊、会食とも前年実績を上回っていない。製造業の業績が良くならないとサービス業の景気は好転しない。
都市型ホテル（経営者）	・ 回復力が弱まり、円高など諸情勢から先行き不透明である。
都市型ホテル（営業担当）	・ エコカー補助金廃止に伴う今後の動向が不透明なため、製造業を中心に自粛傾向にある。
旅行代理店（経営者）	・ いろいろな商品販売を試しているが、販売増の糸口がまだ見つけられない。
旅行代理店（経営者）	・ 生産現場の海外移転とそれに伴う本社機能の移転など様々な動きが起き始めており、このような状況を大きく変えることがない限り、徐々に経済環境は悪化していく。
旅行代理店（従業員）	・ 収入が増えないと、なかなかレジャー費は増えない。今年は特にレジャー費に回る金額が多くない。
旅行代理店（従業員）	・ ローコストキャリアの日本進出によって、航空料金の競争激化が始まり、日本の航空会社もその分野に移行していくという段階に突入した。収入率の低下に拍車がかかりそうであり、業界の先行きは視界不良である。
通信会社（企画担当）	・ 業界が拡大方向から、限られた市場でパイを争い合う状況に変化してきており、さらに競争が激化する。
理美容室（経営者）	・ 客の話では、仕事は増えてきたが給料は上がらないとのことであり、景気は良くならない。
設計事務所（経営者）	・ 小さな設計案件にまでコンベ形式を採用するというケースが増えており、コンベ経費が負担となっている。今後も傾向は強まる。
住宅販売会社（企画担当）	・ 来客数が非常に少ない。3か月後はかなり落ち込む。
悪くなる	
百貨店（販売担当）	・ 輸出産業が盛んな地域であるため円高が景気を左右する。年末にかけてはかなり厳しい状況となり、当然ボーナスにも反映されて消費意欲も低下する。
百貨店（経営企画担当）	・ 企業の第2四半期決算発表を受けて、円高による輸出産業への影響が顕在化し、消費マインドがさらに低下する。
コンビニ（店長）	・ 今月はたばこ値上げ前の駆け込み特需で売上が増加したが、来月以降の売上げはほとんど見込めない。
コンビニ（企画担当）	・ たばこ値上げ前の駆け込み特需以外に、プラスとなる要因に乏しい。
コンビニ（エリア担当）	・ 今月はたばこ値上げ前の駆け込み特需があって一見すると売上は好調に見えるがたばこ以外の商品は動いていない。むしろ前年より減少しており、根本的にコンビニの景気は良くない。来月以降、たばこが値上がりするとますます来客数が減る。
コンビニ（店長）	・ 今の状況を見ていると、来店頻度、売上単価が上がるとは考えられない。むしろ悪くなる。
コンビニ（店長）	・ たばこ値上げ前の駆け込み特需による反動で、今後1～2か月は売上が大きく落ち込む。
コンビニ（商品開発担当）	・ たばこ値上げ前の駆け込み特需による反動が、10月以降、かつて経験したことのないレベルで襲ってくる。2～3か月は売上に影響する。
乗用車販売店（従業員）	・ エコカー補助金に関する駆け込み受注の反動もあり、年内は相当厳しくなり、販売が見込める要素がない。
その他専門店〔貴金属〕（店長）	・ 景気不透明な社会情勢が変わらないなかで、個人消費や所得が減っている限り、売上の大きな回復は望めない。
高級レストラン（スタッフ）	・ 予約客数など先行きをみる指標は下降している。
一般レストラン（経営者）	・ どのような職種も明るい見通しがなく、景気の良くなる要素が感じられない。
テーマパーク（職員）	・ ゴールデンウィークや夏休み期間など人が動くべき時期は節約していないようであるが、それ以外の平時は出費を抑え気味にしているため、今後はさらに景気が悪くなる。
美容室（経営者）	・ 円高の影響もあり景気は悪い。そのなかで景気が良くなる要素が全くない。
理容室（経営者）	・ これまでの状況を見る限り、景気は悪くなくても、良くなるようなことはない。

		住宅販売会社（経営者）	・客に購入意欲はあるが、頭金が少なく、収入も減っている。また、金融機関の融資額も減っているため、総合的に購入できない状況にある。この状況は今後も続く。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・毎年、秋口から年末に掛けて着工件数が増加しているが、さらに今年は食器、タイル及び衛生陶器業界の先行指数となる住宅着工件数が約5%増加している。
電気機械器具製造業（営業担当）		・円高がこれ以上続くとは思えない。今後本格的な財政出動があれば、良い方向に向かう。	
輸送用機械器具製造業（品質管理担当）		・取引先企業の新機種の上り上がり本格的に始まり、それによる設備投資の増加に伴って多少改善する。	
輸送業（エリア担当）		・引き続きアジア圏の経済発展が期待される。	
	変わらない	会計事務所（社会保険労務士）	・一番厳しかった建設業が、少しずつ仕事が増えてきている。他の業種は、売上は伸びてきているので、今後はいかに利益に結び付けられるかが課題である。
化学工業（企画担当）		・長引く円高、株安の影響を受け、景気は足踏み状態になる。	
		窯業・土石製品製造業（社員）	・取引先と話していると、「年内は現在の水準で移行する」と言った声を聞く。しかし、自動車関係は生産調整に入っており、予断を許さない状況にある。
		金属製品製造業（従業員）	・プロジェクトなど、仕事量が増えそうな情報が聞こえてこない。あるとしても、首都圏に限定される。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量の微増傾向は今後も続きそうであるとの情報もあり、下期後半に期待したい。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・引き合いの件数は増加しそうであるが、このまま円高が続けば価格競争力がなくなり、受注できなくなるか利益がでない状況になる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・車載電子部品の減産影響以外は大きな変化は見込まれない。
		建設業（営業担当）	・どここの企業も様々なことを試している。新しいやり方、新しい考え方で立ち向かわないと現状のままでは厳しくなる。
		輸送業（エリア担当）	・ここ半年くらいの傾向であるが、国内の荷物量が増える兆しがなく、むしろどんどん減ってきている。将来もこのような流れになり、急な景気回復はありえない。
		輸送業（エリア担当）	・エコカー補助金の効果も薄れるが、何ととっても販売価格が上がってこない。なかなか利益を出せる単価になってこない。
		輸送業（エリア担当）	・一部を除いて荷の動きはとても悪い状況であるが、トラック・トレーラで運搬するバラセメントの依頼が出てきたので、これ以上悪くはならない。
		通信業（営業担当）	・政治問題は一段落したが、円高問題等いろいろ外的環境の厳しさもあり、景気は変わらない。
		通信会社（法人営業担当）	・良くなる要素が見当たらない。
		金融業（企画担当）	・エコカー補助金終了によって自動車販売は落ち込み、不動産の動きも低迷している。特に個人は消費に慎重であり、個人消費が回復してこない景気は良くならない。
		不動産業（開発担当）	・首都圏では高額マンションが販売好調と聞くが、当該地域においては竣工前に完売する物件は限られており、明るい兆しが見られない。
		不動産業（管理担当）	・今後、円高などが2割以上進めば、家賃の賃下げ交渉、事務所の借り換えが生じる可能性もあるが、今はすべての面で落ち着いているので、しばらくは変わらない。
		広告代理店（制作担当）	・依然として状況は厳しく回復の兆しはまだあまり見られない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・来年度から小学生の教材に新聞が使われるが、これが新聞増紙に繋がるかどうかはわからない。その他に新聞販売を増やす材料が見つからない。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・営業活動を活発に行っているが、取引先においてもこれといった決め手がなく、受注に結び付いていない。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・多少受注量が増えてきたが、単純にこのまま増えていくとは思えず、しばらく増減を続けていくであろう。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・販売価格は下落傾向にある。売れているのは低価格帯の商品が多く、購買意欲の回復がみられない。この傾向は当分続くと思えるが、円高による消費者心理の萎縮が懸念される。
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・取引先からの新規案件が少ない状況である。既存の製品が受注できれば良い方である。

		<p>パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）</p> <p>印刷業（営業担当）</p> <p>化学工業（人事担当）</p> <p>電気機械器具製造業（営業担当）</p> <p>電気機械器具製造業（経営者）</p> <p>輸送用機械器具製造業（財務担当）</p> <p>輸送用機械器具製造業（総務経理担当）</p> <p>建設業（経営者）</p> <p>輸送業（経営者）</p> <p>輸送業（従業員）</p> <p>金融業（従業員）</p> <p>金融業（法人営業担当）</p> <p>会計事務所（職員）</p>	<p>・円高、株安、それに伴って受注量の減少、値下げの要求が出始めている。</p> <p>・自分の会社、周りの会社の状況を聞くと、現状維持も難しくまだ下がる気配である。一部では景気は上向きだとの話もあるが、周りでは全くそのような実感はない。</p> <p>・現在の円高、海外情勢の不安定さ、政治を考えると、景気が上向く要因が見当たらない。</p> <p>・円高の影響で下期の見通しは厳しい。</p> <p>・円高の影響により、海外店など大企業の海外シフトがまだまだこれから活発となるため、国内での生産、受注量、単価が厳しくなる。</p> <p>・エコカー補助金の終了、円高による輸出量減によって仕事量が減り、労働時間短縮を行う職場が一部で発生する見込みである。</p> <p>・円高要因で輸出が減る一方、鋼材の値上げを業者から求められており、それを価格転嫁できない状況にある。</p> <p>・自動車産業が中心の当地区においては、補助金の打ち切り、円高などマイナス要因が多く、やや下振れすると予想している。</p> <p>・円高の継続・進行を予測しての製造業の工場海外移転計画が次々と発表され、国内の二次下請けメーカーの生産予定が下方修正されている。</p> <p>・原油をはじめ原材料価格が高騰しているが、価格転嫁が難しく、円高と相まって輸出関連のメーカーは特に厳しい状況にある。物流関連企業は、燃料高に輸送量の減少でダンピングが心配される。</p> <p>・エコカー補助金が終わり、今後は車の販売不振が予想され、景気も良くない方向へ向かう。</p> <p>・円高、株安に加えて、エコカー補助金の終了などにより、先行きの景気に悲観的な見方が広がっている。景気低迷に伴い、消費者のマインドは低下し、とりわけ非製造業の業績悪化が予想される。</p> <p>・特に中小企業において設備投資をする企業がほとんどない。また設備投資を予定している企業もないようであり、設備投資をしていく景気ではないとほとんどの経営者は言っている。</p>
	悪くなる	<p>鉄鋼業（経営者）</p> <p>金属製品製造業（経営者）</p> <p>不動産業（経営者）</p> <p>経営コンサルタント</p> <p>公認会計士</p>	<p>・円高、中国の生産の落ち込み、国内景気刺激策など全く景気上昇要因がない。各社の生産計画も10月は軒並み前年比20%ほど減少となっている。</p> <p>・引き合いの減少が顕著に現れている。</p> <p>・遊興費、外食費など贅沢財に近いものの動きが少なく、それらを取り巻く不動産業、動産業、業種にかかわらず低迷し、デフレ傾向が強まる。</p> <p>・雇用問題が大きな影を落としている。政府も地方自治体も雇用に対して本格的になっておらず、真面目に働いても住宅ローンが払えない、家賃も払えない状況になっている。消費の低迷、住宅投資の手控え傾向になっており、マイナスの悪循環に陥っている。</p> <p>・自動車関連の操業度が下がる見通しであり、波及効果が大きい。中国とのビジネスに不信感が広がっている。</p>
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	<p>人材派遣会社（経営企画）</p> <p>職業安定所（所長）</p>	<p>・今後も研究開発ニーズは継続して増加傾向にある。</p> <p>・緩やかながらも求人数の増加傾向が続く。</p>
	変わらない	<p>人材派遣会社（経営者）</p> <p>人材派遣会社（社員）</p> <p>人材派遣会社（社員）</p> <p>人材派遣会社（営業担当）</p>	<p>・当地区の求人はほとんどない。大都市圏では求人の動きが少し出てきたが、地方に回るのはまだまだ先のことになる。IT関係はほとんど求人がないが、通信関係は改善が見られる。</p> <p>・優秀な人材の中途採用は今後も活発ではあるがその分新卒採用や経験の乏しい人材採用は手控えられる。</p> <p>・近隣での新規オープンなど同業者間での客の取り合いで、しばらく求人数も減少したままの厳しい状況になる。</p> <p>・派遣先の顧客開拓及び、業務の拡販は停滞しつつある。それにも増して求職者数が増大しておりその需要と供給のアンバランスが保たれていないし、またそれを望めない。</p>

	人材派遣会社（支店長）	・派遣から業務委託への流れが当地区でも浸透しつつある。導入まである程度の時間を要するケースが多いが、直近で緊急雇用対策費用の追加など公共関連の動きが活発化するため、売上水準は変わらない状況が続く。
	求人情報誌製作会社（企画担当）	・エコカー補助金等の終了で製造系の雇用面で、見通しが立たなくなっている。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新聞の求人広告は底ばいのままで、地元の主要産業である自動車産業を取り巻く状況を見ても、まだ回復傾向とは言い難い。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・2011年春卒業する学生を対象とした就職ガイダンスは前年比55%で終了する。学生にとっては超氷河期の就職環境が続いている。2012年対象の新卒募集も始まったが、現時点での動きは前年以上に低調である。
	職業安定所（職員）	・求人数は増加しているものの、前年比で見ると常用求人よりもパート求人のほうが増加率が高い状況にあり、大きく改善するところまでには至っていない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・大学生の採用状況に改善が見られず、むしろ悪化を示す数字も見受けられ、雇用という観点からは、まだ底からの脱却感が無い。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・5月以降見送っていた平成23年度新卒採用会社説明会を、今月より再度開催したところ、エントリー件数では春実施の際の最大数を上回った。その中の数名から「内定取り消し」を被ったなどの状況を聞いた。雇用回復を実感するには至らない。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人の正社員求人割合をみると、前年同月比で8か月連続の低下となっており、企業が先行きに慎重になってきている。
	職業安定所（職員）	・新規の求人数が、特に製造業を中心になかなか伸びない。円高がすぐに回復するとは思えず、今年の末にかけて若干悪くなる。
	職業安定所（職員）	・ここ2か月あまり、求人数は増加傾向にあったが若干増減率が緩やかな状況になっている。企業はエコカー補助金の終了などにより不透明感が更に強まったため、求人の出し渋りなど慎重に対応している。
	職業安定所（職員）	・「解雇による」又は「期間満了」を退職理由とした退職が増えている。求人もパート求人が増えており、正社員求人はどんどん減少し、採用抑制が続いている。
	職業安定所（職員）	・円高の影響が既に出てきている企業もあるが、10月以降にならないと影響は出ないという企業が多い。エコカー補助金終了による影響も相まって、2～3か月先には影響が出る企業が増える。
	民間職業紹介機関（支社長）	・大幅な景気下降はないかもしれないが、日本の景気が良くなる要素が見つからない。新規求人票は入ってきているものの、採用の目線が厳しくなりつつある。
	民間職業紹介機関（営業担当）	・円高などによる企業の採用意欲が低下しており、この傾向は変わらない。
悪くなる	アウトソーシング企業（エリア担当）	・エコカー補助金の終了に伴い、生産が全般的に2～3割程減少する見込みである。年末に若干の持ち直しが見られそうであるが、まだ不確定である。